

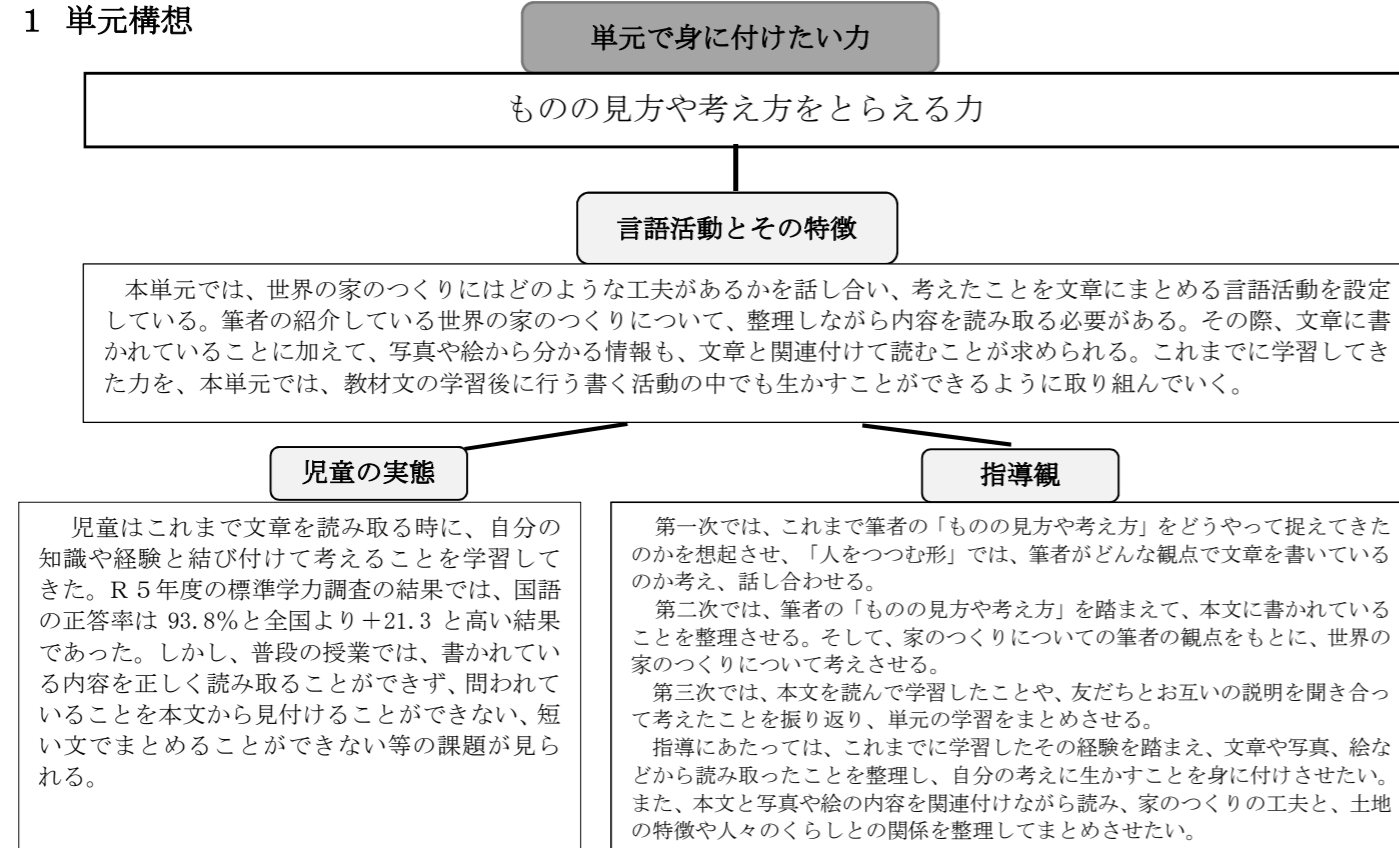
第3・4学年 国語科学習指導案

【令和5年11月28日(火) 第5校時 大用小学校 3学年：4名 4学年：3名 計7名 授業者 山脇 昌代】

(第3学年)

◆単元名 世界の家のつくりについて考えよう 「人をつつむ形 -世界の家めぐり」

1 単元構想



2 単元の目標及び評価規準

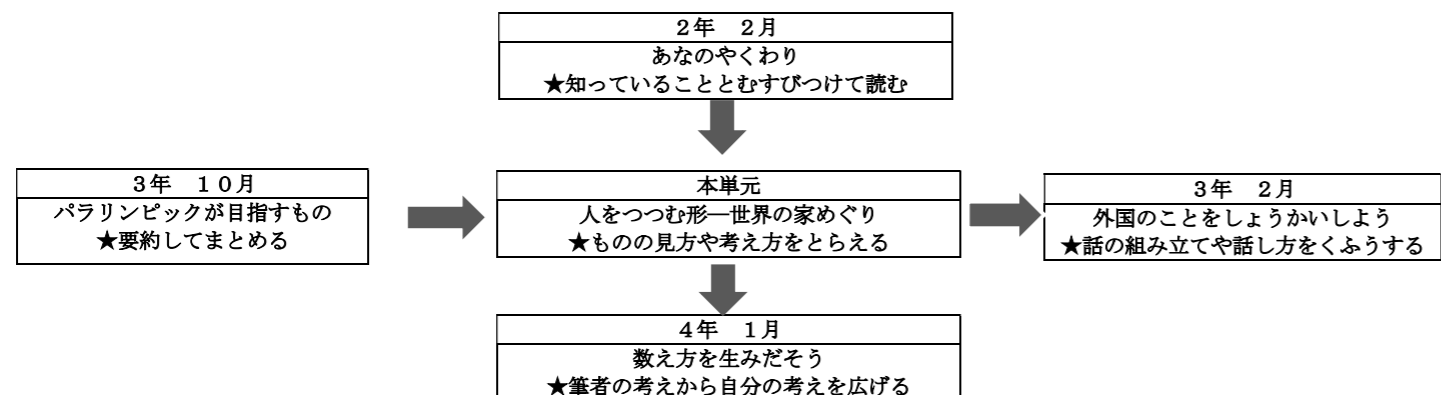
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
考えとそれを支える理由や事例などの情報と情報との関係について理解することができる。(2)ア	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。C(1)オ	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考えとそれを支える理由や事例などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。C(1)オ	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って、粘り強く、分かったことや考えたことを説明しようとしている。

3 単元の系統性



4 研究主題に関わって

研究主題：確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。
・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 「読むこと」における育成を目指す資質・能力に適切な言語活動を設定する。
・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。
・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

5 学習の流れ(全11時間)

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方法	言語活動
第一次(つかむ)	①単元のゴールを知り、学習の見通しを立てる。 ・「人をつつむ形」について考え、世界の家のつくりについて紹介文をつくるという学習課題を確かめる。		記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを文章にまとめ、伝える。
第二次(取り組む)	②「人をつつむ形-世界の家めぐり」を読んで、筆者が紹介している世界の家のつくりについて読み取り、整理してまとめる。 ・文章の組み立てを理解し、その土地の特徴や人々の暮らし、地元にある材料と家のつくりの2つの観点を押さえる。 ・3つの国の家のつくりについて表にまとめて整理し、筆者のものの見方や考え方をとらえる。(本時5/11) ③整理したことをもとに、家のつくりの工夫と、その土地の特徴やそこに住む人々の暮らしとの関係について比べながら考える。 ・その土地の特徴や人々の暮らしにあった家の形であることに着目する。 ④世界の土地の特徴や人々の暮らし方と世界の家のつくりについて、2つの観点から考え、まとめる。 ・自分の意見を発表し合い、感想を交流する。	【知識・技能】 2・3・4・5・6時間目 考えとそれを支える理由など情報と情報との関係について理解している。(発言・行動観察・ノート・タブレット)	
第三次(振り返る)	⑤単元の学習を振り返る。 ・どんなことを意識して文章を読んだかを思い出し、自分の学習の仕方を振り返る。	【思考・判断・表現】 7・8時間目 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(発言・行動観察・ノート・タブレット)	
		【主体的に学習に取り組む態度】 9・10時間目 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約し、学習課題に沿って、粘り強く、分かったことや考えたことを説明しようとしている。(発言・行動観察・ノート・タブレット)	
<p>単元終了時に目指す児童の姿</p> <p>○筆者の説明の観点を生かし、世界の家のつくりについて考え、紹介文にまとめる</p>			

〈第4学年〉

◆単元名 日本語の教え方について考えよう 「教え方を生みだそう」

1 単元構想

単元で身に付けたい力

筆者の考えや友だちの意見、体験などから、自分の考えを広げる力

言語活動とその特徴

本単元では、教材文を出発点として、最終的に日本語の教え方について自分なりの考えをまとめるという言語活動を設定している。教材文に書かれている筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、それを他の児童と比較・共有し、自分の考えを深めて書くという手順で学びを深めていく。自分とは異なる他者の意見や物事の感じ方に触れることが、自分のものの見方や考え方を広げたり深めたりするうえで大切であることを理解させたい。

児童の実態

児童はこれまでに、3学年の時、「人をつつむ形—世界の家めぐり」で、理由や事例との関係に着目し、筆者のものの見方や考え方を捉える学習を行ってきた。R5年度の標準学力調査の結果では、国語の正答率は80.8%と全国より+10であった。しかし、「説明文の内容を読み取る」「調べたことをもとに文章を書く」に課題が見られた。

指導観

第一次では、筆者が述べていることに共感したり、疑問を感じたりしたことを話し合い、学習課題をもたせる。
第二次では、「教え方を生みだそう」を読み、筆者の考えの根拠となる事例を見付ける。自分の知識や経験と比べ、筆者の考えについて自分の考えを書かせ、友だちと交流させる。
第三次では、学習前後の自分の考えの変化について考えさせ、日常生活の場面で、友だちの意見に対して、自分がどう考え、どうしていくかを伝えることができるようにさせる。
指導にあたっては、これまでに学習したことを使って、筆者の考えに対する自他の意見の違いを踏まえたうえで、改めて自分の考えをまとめさせたい。また、自他の意見を可視化するためにタブレットを活用し、考えを深めるための手立てとして活用させたい。

2 単元の目標及び評価規準

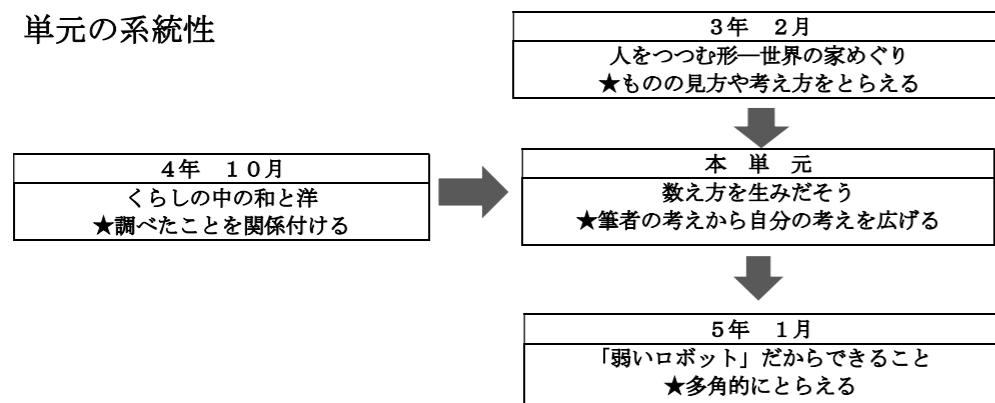
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができる。 (2)ア	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 C(1)カ	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。 C(1)カ	学習の見通しをもって、筆者の考えとそれを支える理由や事例との関係をもとに、積極的に文章の一部を引用して意見を述べようとしている。

3 単元の系統性



4 研究主題に関わって

研究主題：確かな学力を身につけ、ともに学び合う子の育成

- 国語の見方・考え方を働かせる手立てを焦点化させる。
・見方・考え方をどの場面で働かせたいのかを考え、意図的に設定する。
- 「読むこと」における育成を目指す資質・能力に適切な言語活動を設定する。
・記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動を設定する。
- 家庭学習(特に予習)を授業の中で生かす場面をつくる。
・意図的に家庭学習を生かす場面をつくる。

5 学習の流れ (全11時間)

学習過程	主な学習内容及び学習活動	評価の計画及び評価規準、評価の方法	言語活動
第一次 (つかむ)	<p>①単元のゴールを知り、学習の見通しを立てる。 ・筆者の考えを読み取り、日本語の教え方に対する自分の考えを書き、友だちと話し合ったり、体験したことをもとに文章をまとめ、自分の考えを広げるという学習課題を確かめる。</p>		<p>記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して分かったことや考えたことを文章にまとめ、伝える。</p>
第二次 (取り組む)	<p>②本文を読み、筆者がどのように自分の考えを述べているかを読み取る。 ・なぜ筆者がそのような考えを持っているか、根拠となる事例を探す。</p> <p>③筆者の述べていることに対して、思ったことや考えたことをまとめ、話し合う。 ・自分の知識や経験と比べて、筆者の考えに納得できることや疑問に思うことを共有する。(本時6/11) ・教え方を考える体験を通して、友だちの意見を聞き、自分の考えを広げる。</p> <p>④日本語の教え方について自分の考えを書く。 ・筆者の述べていることを確かめるとともに、それに対して自分が考えたことを書く。</p>	<p>【知識・技能】 2・3・4・5時間目 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解している。(発言・行動観察・ノート・タブレット)</p> <p>【思考・判断・表現】 6・7・8時間目 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。(発言・行動観察・ノート・タブレット)</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 9・10時間目 積極的に、言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、学習の見通しをもって文章の一部を引用して意見を述べようとしている。(発言・行動観察・ノート・タブレット)</p>	
第三次 (振り返る)	<p>⑤単元の学習を振り返る。 ・自分の考えが広がっていった様子を確かめるとともに、学んだことがどのような場面で生かせるかを考える。</p>		
<p>単元終了時に目指す児童の姿</p> <p>○筆者の考えを引用し、日本語の教え方に対する自分の考えを文章に書き、友だちの意見や体験したことをもとに、さらに自分の考えを広げる</p>			

6 本時の学習

(1) 目標

第3学年 (本時 5/11)

第4学年 (本時 6/11)

チュニジアの家のつくりについて、観点に沿って整理することができる。

筆者の考えに対して、自分が思ったことをまとめ、伝え合うことができる。

(2) 展開

学習活動及び学習内容	主な発問や指示 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)	教師の動き		学習活動及び学習内容	主な発問や指示 (※) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (○) 評価 (★)
			時間				
1. 本時のめあてを確認する。			0		1. 本時のめあてをノートに書き確認する。		○前時に予習として、筆者の2つの考えに対しての自分の考えを考えてくるように声をかけておく。 ①これまで受けつがれてきた言い方を正しく使っていくことは大切 ②新しいものを生みだせるという、言葉の柔軟さにも目を向けることが大切
チュニジアの家は、どうしてこんなところに作ったのだろう。					筆者が述べていることに対する、自分の考えを伝え合おう。		
2. チュニジアの家の特徴などを本文を見ながら書き出し、表にまとめる。(予習したことを生かす。)	※チュニジアの家は、どうして、こんな形になったのかを本文を見ながら考えましょう。	○項目ごとにまとめられるように声をかける。	3		2. 説得力のある文章になっているか確認する。	※説得力のある文章にするにはどうしたらよいでしょうか。 ・自分の意見をしっかりと書く。 ・くわしく説明する。 ・体験したことを書く。	○漠然とした意見文とならないように、自分の意見は本文のどこに書かれたことに対する考えなのかを明確にし、本文の一部を引用しながら、意見を書くように指導する。
3. まとめたことを発表し、前回学習したことを参考にしながら、チュニジアの家のつくりについてまとめる。	家のつくり ・あなのそこが中庭で、かたすみに小さな野菜畑がある。 ・中庭から横にほったあなが部屋になっていて、羊やヤギの部屋もある。 土地の特徴 ・夏は五十度に近く、冬はれい下より下がる。 ・雨が少なく、水はけのよい土地。 工夫 ・横にあなをほり、あなの中をしっくいできぬる。 材料 ・しっくい穴の中を塗っている。	★考えとそれを支える理由や事例などの情報と情報との関係について理解している。(2)ア (タブレット)	15		3. 文章を発表し、友だちの意見に対して感じたことや考えたことを発表し合う。	※説得力のある文章になっているか考えましょう。 ・筆者がいう「これまで受けつがれてきた言い方」の「まい」や「本」は、今まで使ってきたからどんなものを数えているのか分かりやすいと思う。 ・「新しいものを生みだせる」というのは楽しいが、新しい数え方をどんどん作っていき、分からなくなるのではないか。 ・筆者は「新しいものを生みだせる」といっている。ぼくは、いろいろな数え方を考えるのは楽しいのいいと思う。	★「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。C (1)カ (タブレット) ○発表を聞きながら、友だちの意見と自分の考えを対比させながら感想が言えるように指導する。 ○友だちの意見を聞きながら、タブレットを使い、自分が納得できたかを付箋の色で残しておく。
4. 本時の学習を振り返る。	※チュニジアの家について分かったことやもっと知りたいことを書きましょう。 ・壁にしっくいを使うのは、かべの土を固めるためかな。 ・羊やラクダに食べさせる草をラクダや自転車で運ぶのは、砂漠で近くに草がないからかな？		30		4. 本時の学習を振り返る。	・○○くんの意見はぼくと同じで、今まで通りの数え方がいいと言っていた。理由となるところはちがったけれど、そうだなと思ました。 ・○○くんの意見は、ぼくとはちがっていたけれど、○○くんの意見を聞き、そういう考えもあると思いました。	
			40			・ぼくは、これまで受けつがれてきた数え方が分かりやすくていいと思ったけれど、○○くんの意見を聞いて、新しい数え方を作ってみたいと思いました。	

直接指導

間接指導

(3) 準備物

掲示用の本文、メニューボード、タブレット、モニター

掲示用の本文、メニューボード、タブレット、モニター

(4) 板書

